

【情報提供】上海葵井商務諮詢有限公司

上海市華山路301号 静安商楼211室 TEL: 021-6248-8007

URL: <http://www.aoi-bc.com/> e-mail: shanghai@aoi-bc.com

【編集/提供】葵ビジネスコンサルティンググループ 東京本部 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込1-12-12

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.kaikei.info> e-mail: info@ykss.com

【上海事情】

久しぶりに「上海葵井通信」を執筆するため、なかなかテーマを決められませんでした。そのため、過去私が執筆した「上海葵井通信」を再度読み返したところ、毎年「交通問題」を取上げていることに気がついたため、今月は例年に従い「交通問題」を取り上げたいと思います。

私の家から会社までの約9キロの距離で、片道1時間以上の通勤時間を要することは、すでに以前の「上海葵井通信」で説明しました。その原因は道路渋滞です。道路が狭いうえに、人・自転車・車が多いことが渋滞の最大の原因ですが、渋滞による問題は道路上だけでなく、バスの中でもよく発生しています。

私が毎日利用しているバスは、団地と中心部のオフィス街を結んでおり、毎朝の通勤時間帯になると、バスの中の乗客(ほとんどサラリーマンとOL)は寿司詰状態になっています。その状況は団地の拡大と住民数の増加によって、日々酷くなっていきます。

基本的に上海のバスは「空調付き」と「空調なし」の二種類がありますが、私が利用する通勤バスの3分の1ぐらいの車両は「空調なし」です。夏になると、寿司詰状態になっているバスの中はまさにサウナです。「事件」はその環境の中で起きました。

私が乗ったバスは途中の停留所で、ドアが開けにくい状態になっているにもかかわらず一組の老夫婦が、運転手に「危ないですから、ちょっと空いているバスを待った方がいいですよ。」と言われながらも、強引に乗車しました。

運転手はシルバースートの乗客に席を譲るように促しましたが、老夫婦はその席まで移動できそうもありません。揺れている狭いバスの中、老夫婦は他の乗客に押され続けたため、旦那さんの不満は頂点に達し、周囲の乗客に文句を言い始めました。あまりにもしつこく言われたので、周囲の乗客も反発し始め、ついに喧嘩になりました。

老人の主張は「自分たちは体が弱くて病院へ診査を受けに行く途中であり、押されると辛いから、周囲の乗客に避けてほしい」ということでした。しかし、周囲の乗客にとって、わざわざ通勤時間帯の混雑したバスに乗車してくる、「時間的に余裕のあるはず」老夫婦に不満のようでした。

双方の言い分は理解できますが、喧嘩になる根本の理由を考えてみました。

バスは公共の乗り物ですので、もちろん誰にも乗車禁止する権利はありません。しかし、老夫婦のように一番混雑する時間に乗車してくると、自分の身まで危険にさらされる可能性があります。恐らく、老夫婦も仕方なくその時間に乗車したと思われます。そのやむを得ない理由は、喧嘩の内容から判断すると、「診査のため病院へ行かなければならなかったから」のようです。

都市建設によって住民は都市の周辺に移転し、中心部は商業施設などが集中している上、有名な病院なども中心部に残ったままです。しかも、診査時間は一般の会社とほぼ同じであり、病院へ診査を受けに行く多くの老人は「良い医者」に診査してもらうため、早く病院へ行って整理券をもらわなければなりません。それが通勤時間帯の混雑しているバスに乗らざるを得ない根本的な理由です。都市建設と高齢化が進んでいく上海では、以上のような問題は益々深刻になっていくでしょう。

この問題の解決には、病院の移転、診査システム・時間の変更などいろいろな方法があります。政府部門もテスト的に実行していますが、複雑な社会問題であるうえ、各関係者の間に存在する利害関係を変えるのはそう簡単ではありません。

増えている通勤バスの中のお年寄りたちをみると、交通問題は、決して道路を増設して、車を制限するだけで解決できるものではないと痛感した私です。

叶 家胤 記